

担当 《 図画工作 》

武蔵野市立第五小学校

<p>学力調査と学校経営方針からみた授業改善の方向性【言語活動の充実】</p>	<p>各教科等における言語活動の充実を中心とした指導の実際</p>
<p>《学力調査から》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「聞くこと」は高い意欲があり、「交流」を活用するとよい。 ○「身の回りのことをグラフや表で整理して考える」活動を各教科で推進する。 ○「分からないことや興味をもったことを進んで調べる」活動などを発展的な学習に入れる。 <p>《言語活動の充実に向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> ①体験から感じ取ったことを表現する ②事実を正確に理解し伝達する ③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり、活用したりする ④情報を分析・評価し、論述する ⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する ⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる <p>《言語活動の指導の在り方》</p> <p>(1)知的活動(論理や思考)に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事実を正確に理解し、他の人に的確に分かりやすく伝える ○事実等を解釈し説明するとともに、互いの考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させる <p>(2)コミュニケーションや感性・情緒に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ○互いの存在についての理解を深め、尊重していく ○感じたことを言葉にしたり、それらの言葉を交流したりする 	<p>○学習の見通しと学習の振り返りの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材の導入では、ねらいを知らせる。教科書の活動例や図版から、活動内容や見通しをもたせる。 ・活動の中で考えたり、試したりするポイントを示し、各自のペースで進められるようにしていく。 ・課題への取り組みを振りかえりカードに書かせる。 <p>○言語環境を整える工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の手本となることを意識して、教師が言葉遣いに気をつけるようにする。 ・児童同士がお互いを呼び合う時に、「さん」「君」をつけて呼び、丁寧な言葉使いができるようにする。 ・質問や会話をする際は、敬語の正しい使い方を学習する。 <p>○自分の考えをもたせる工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が表したかったことを明確に発言できる習慣を身につけさせる。 ・発想したことに合わせて、活動を発展または、修正する手立てを主体的に考える姿勢を引き出すような発問を工夫する。 ・自分の考えに理由をつけて説明させる。 <p>○言語活動の具体的な工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問などの話し言葉は、文章の最後や語尾まではっきり言うようにさせる。 ・教師や友達に伝わる声の大きさを示し、「何が」「どうした」など、何を話したいかを明確にして話す習慣を身につけさせる。 ・作品のまとめである名札に、活動の主題に合わせた題名を考えさせ、表したかったことについて端的な言葉で表現ができるようにする。 ・小集団での話し合い活動を意図的に取り入れていく。 ・鑑賞時などに、多様なものの見方・考え方に触れるようにする。